

研究テーマ

- ①「自分の考えを進んで説明しようとする表現力の育成」
- ②「学習の流れがわかる板書とノート指導の取り組み」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 橋本 幸典	委員	教務主任	久米田 美和子
		1学年担任	折野 美穂
		特別支援コーディネーター	久米田 芳江
		4学年担任	森下 淳子
		6学年担任	豊田 理絵

校長 立岩 一彰

阿南市立岩脇小学校
「学力向上実行プラン」

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 漢字の読み書きや数計算の力は、おむね身につけ、条件に合わせた作文が書ける。	基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけ、それらを日常生活の中で進んで活用できる。	読み・書き・計算の基本的な確認テストで正答率90%以上を目指す。			
課題 語彙が豊富な児童とそうでない児童の個人差が大きい。有用な情報を選択し、分析したり考察したりする力に乏しい。空間図形の測定を苦手とする児童が多い。	①朝の活動時に漢字・計算のドリル学習や確認テストを行う。また、授業で不十分だった問題の反復学習を行う。 ②課題や条件に合わせて適切に表現する力を育成する。 ③体験活動やICTの活用により、量的な実感が得られるような授業を創造する。	①週一回程度漢字・計算の確認テストを行う。 ②朝の活動を各学年で計画的に活用し、「ミニ・条件作文」「鳴潮書き写し」「新聞感想文」「きくきくドリル」等に取り組む。	・熟語の意味、用法を意識しながら学ばせる。 ・立式を言葉で説明する活動を増やす。 ・自分の考えを相手にうまく伝える手段を工夫する。	評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 筋道を立てて考え、理由を付け加えながら発表できる児童が増えてきた。また、考察の方法や手順に関する学習には、積極的に集中して取り組むことができる。	課題や目的に応じて筋道を立てて考え、理由や根拠を明らかにして、進んで自分の考えを説明することができる。「課題」に対して「ふり返り・まとめ」を自分の言葉で表現することができる。	「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが楽しい(得意)」の割合を80%以上にする。			
課題 友達の意見を聞いたうえで自分の考えをまとめたり、グループ全体の意見を練り上げるまでには至っていない。また、自分の考えを持っていても、自信を持って積極的に発表しようとする意欲に欠ける児童も少なからずいる。	①教材や発問を工夫し、筋道を立てて考えられるように指導する。(発表の仕方や具体的な言葉を提示する。) ②前年度と同様、NIEの活動に取り組む。 ③授業力向上チェックシートで定期的に自己の授業を振り返り、授業力向上に役立てる。 ④板書の構造化(「めあて」「思考」「まとめ」が分かる)を図り、板書と一体化したノート指導に努める。	①ペアトークやグループ討論、ディベート、ホワイトボードミーティング、ICT等を1日に一回は取り入れる。 ②NIEの実践に取り組む、各学年で独自の教材を作成する。 ③年に2回は、チェックシートによる振り返りを行い、授業力向上に努める。 ④めあて・思考・まとめをノートに書かせる。	・類似した資料から取捨選択する力をつける。 ・自分の考えを言葉で説明する活動を多く取り入れる。 ・生活に根ざした文章・問題に慣れ親しむ。 ・長文問題を読み取る力をつける。 ・授業のまとめや考えをノートにまとめさせる。	評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 家庭学習の習慣や基本的な生活習慣は、ほぼ定着している。与えられた課題については、最後まで根気強く取り組む。	家庭学習でも苦手な課題に根気強く取り組むことができる。家庭でも進んで読書をする。「若小っ子授業のルール5つのやくそく」を守ることができる。	家庭学習の実施率を各クラスで100%を目指す。一人ひとりの読書時間を増やす。			
課題 自分から進んで課題を見つけて、学習に取り組む、追究・解決していくことが苦手である。また、家庭における読書の時間・量が少ない。	①3年生以上では、自主学習ノートを持たせ、進んで自主学習に取り組むよう手立てを工夫する。(シール・色別ノート・コンクール・リレー式など) ②読書時間の確保(週一回20分以上)を徹底する。 ③各学年読み聞かせを積極的に取り入れる。高学年が低学年に読み聞かせを行う機会をつくる。	①自主学習ノートの達成冊数や内容の素晴らしいものを積極的に紹介し、一人年間1冊以上を目指す。 ②図書委員会の読書優良児童(低100冊、中50冊、高20冊以上)の表彰の割合を各学年50%以上にする。 ③下学年では、週一回読み聞かせを行う。	・読書、視写に興味を持たせる。 ・辞書を活用する習慣を身につけさせる。 ・文字数を決めて要旨をまとめる活動に取り組む。 ・定期的に指定した漢字を使った文章を書く課題を出す。	評価	次年度における改善事項

平成31年度 学力向上ロードマップ

